

第14回小田原市市民活動推進委員会 会議録

- 1 日時：令和3年3月14日（日）午前9時20分～9時45分、午後2時～3時30分
- 2 場所：小田原市役所 7階 大会議室
- 3 出席者：前田委員長、益田副委員長、日下部委員、福田委員、加藤委員、善波委員、林委員、吉澤委員、杉山委員、蕪澤委員
関係者：UMECO指定管理者 露木センター長、椎野副センター長、桂氏、斎藤氏
事務局：府川課長、森係長、岡崎主査
- 4 資料：
 - ・次第
 - ・資料2 市民活動団体への資金面への支援について

5 会議内容

■ 開会

委員長：ただいまから、第14回小田原市市民活動推進委員会を開会する。

本委員会の会議は原則公開となっているが、本日の会議の議題（1）市民活動応援補助金第二次審査については、市民の間に不当な影響が生じないようにし、かつ特定の者に不当な利益又は不利益を与えないようにするため、小田原市情報公開条例第24条第3項に基づき「非公開」とする。

■ 議題（1）市民活動応援補助金第二次審査【非公開】

■ 議題（2）市民活動応援補助金交付事業について

委員長：それでは、議題（2）市民活動応援補助金交付事業についてに入る。事務局から説明をお願いしたい。

（事務局から、資料2に基づいて説明）

委員長：ただいまの説明で何か意見や質問はあるか。

UMECO市民活動応援補助金については、より多くの団体から応募があれば現行のままでも問題とはならないと感じる。

事務局：そのとおりであるが、前は応募20件、今回は応募18件と、UMECO側でもよくPRいただいているが、コロナ禍での大幅な件数増は難しいと考えている。

委員長：市民活動団体と自治会・企業等の連携を促進するため、かわさき市民活動センターでは「かわさき市民公益活動助成金」において、「コラボ50」というメニューを創設した。小田原市においても、こういった取組により応募件数の増を目指してはどうか。今期の諮問事項である、市民活動団体と地域の連携促進にも通じるものであり、こうしたインセンティブも有効であろう。市においては、コロナ禍で補助金の財源に相当苦慮しているから見受けられ、総額を増やすことが難しい中で、新たな枠組みも検討できると良い。

本件は、第9期委員会報告書にも反映させるのか。

事務局：「その他の検討事項」の「市民活動支援に係る諸制度の改善について」中、「市民活動団体への資金面での支援」において反映させたいと考えている。委員会として課題を感じていることや、今後改善に向けて検討を要することについて、ご意見をいただきたい。

委員：コロナ禍で、計画を立てても実施できない恐れがあり、団体としても応募しづらい状況であることは念頭に置きながら、新しい形を検討する必要があると思う。

委員：先ほどの「コラボ50」のように、連携に重きを置くというのは、新しい切り口として有効と思われる。また、小田原市ではSDGsを推進しているので、そうしたテーマ性を付与することにより、取組をPRしたい企業等への訴求効果が高まるのではないかと。

委員：スタートアップコースの応募時に、UMECOへの事前相談というのはあるのか。当該コースの企画提案書を見ると、もう少し精査した方が良いと思われるものも見受けられる。

事務局：今回については、ほぼ全ての団体が事前相談を行っているというが、毎年そうとも限らないことから、事務局案として事前相談の充実を挙げさせていただいた。

指定管理者：事前相談においては、書類の書き方の指導も必要かもしれないが、団体の事業が正しく表現されたものでないと、適切な審査が難しくなると考える。

初めて応募する団体は書類作成するノウハウに乏しいところが多いことから、まずは団体の事業と一緒に整理するところから始めている。今後、そういったアドバイスの仕方をより効果的なものとしてできるよう、検討してまいりたい。

事務局：本日のプレゼンテーションの様子を踏まえると、審査の上では、書類の体裁を整えることよりも、疑問点が残らないようにすることが重要であると考えられるので、事前に委員の皆様から質問を受け付け、団体からの回答を踏まえた上で第一次審査を実施する等、検討してまいりたい。

委員長：第一次審査と第二次審査の間で事前質問を行う方が、委員の中でも疑問点が明らかとなり有効である可能性もある。秦野市では第一次審査後に事前質問を団体に送付し、プレゼンの発表5分、事前質問に対する回答3分、というように、不公平にならないように時間を区切っている。また、回答は口頭だけではなく、紙ベースで当日配布される。プレゼンの時間短縮にもつながる可能性がある。ただし、秦野市の場合は委員数が少ないので、小田原市では質問数を制限する必要があるかもしれない。

事務局：企業との連携の部分であるが、現在、市では公民連携として積極的に推進しようとしているので、市民活動推進の観点で何ができるか、考えてまいりたい。ただ、限られた補助金の予算の中でコースを設けた場合、企業としては小規模な事業になってしまうかもしれないという懸念はあり、検討が必要である。

指定管理者：SDGsを意識して活動している団体が多くなってきている。UMECOでも、「企業・NPO・学校のつながり in 小田原」と題し、企業と団体等の連携を促進する事業を実施してきており、連携事例もいくつか出始めている。そうしたところをつながげながら、持続可能な取組となるように努めてまいりたい。

■ その他

委員長：その他について、事務局から願います。

事務局：今後の会議日程について調整・確認させていただく。

※第15回委員会	・・・5月19日（水）午前9時30分～	UMECO
第16回委員会（事業報告会）	・・・6月20日（日）午後	UMECO

■ 閉会